

《担当者名》 奥田かおり k-okuda@hoku-iryo-u.ac.jp 片山寛信

【概要】

対人援助の仕事に携わるとき、対象となる家族の理解は必要不可欠となる。個人や社会の構成単位としての家族を理解するために、家族研究の基礎理論やデータをもとに現代社会の家族について社会学、家族関係学の視点から考える。

【学修目標】

専門職として多様な家族への援助を考えるために、家族内の問題を社会的要因との関連で理解することができる。多様な家族への支援方法を知る。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 家族とは(1)	受講上の諸注意を理解する。 家族のイメージ、家族の定義について理解する。	奥田
2	家族とは(2)	日本の家族、世界の家族、「家族」に関する価値観の違いを認識する。	奥田
3	家族とは(3)	家族の始まり、家族計画、結婚について知識を身につける。	奥田
4	現代家族がかかえる問題(1)	子育てストレス、育児不安、離婚、ひとり親家庭障害を持った子どもがいる家族について理解する。	奥田
5	現代家族がかかえる問題(2)	ドメスティックバイオレンス、虐待が起こる背景やその家族の状況について理解する。	奥田
6	現代家族がかかえる問題(3)	児童虐待が起こる背景について理解を深め、解決方法を考察できる。	奥田
7	ジェンダー論と家族関係	社会的性差と生物学的性差の違いについて知る。 ジェンダーが人の発達、社会生活にどのような影響を与えているか理解する。	奥田
8	家族支援(1)	家族支援について理解を深める。 子どもの権利からみた家族支援の必要性について学ぶ。	奥田
9	家族支援(2)	支援を必要とする家族・子どもについて、(DVや児童虐待事例)具体的な支援方法を学ぶ。	片山
10	家族支援の方法(1)実践編	家族アセスメント：当事者研究を使った情報収集ができる。	奥田
11	家族支援の方法(2)実践編	グループワーク：家族エンパワメントのグループワークを体験的に学ぶ。	奥田
12	家族支援の方法(3)	家族支援する上での方法論(システム論、家族療法)について学ぶ。	奥田
13	家族ソーシャルワーク(1)	事例検討：家族の状況を把握する能力を身に付け、アセスメントを行う。	奥田
14	家族ソーシャルワーク(2)	事例検討：家族支援の展開方法について理解する。	奥田
15	まとめ	これまでの授業で学んだことを振り返り、レポート作成の準備をする。	奥田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席態度 30% 課題のプレゼンテーション 20% 最終課題レポート 50%

【教科書】

テキストは使用しない。適宜、講義用プリント、資料等を配布する。

【参考書】

みんなで考える家族・家庭支援論 草野いづみ編著 (第2版 2016) 同文書院
社会福祉理論としての家族福祉論 鶴野 隆浩著 (2014) みらい

【学修の準備】

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2

【実務経験】

奥田かおり(ソーシャルワーカー) 片山寛信(社会福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

奥田かおり: 社会福祉施設(母子生活支援施設)、精神保健福祉領域(医療機関)などで家族ソーシャルワーク・グループワークを展開してきた経験を活かし実践的な教育を行う。

片山寛信: 児童養護施設、障害者(児)相談支援事業所におけるソーシャルワーク実践の経験を生かした教育を行う